

学部案内

社会全体が大きく変化し、
自律的で持続可能な社会づくりが求められています。
その中でも、地域資源を経済的価値に転換できる仕組みや、
国内外の開拓やリンケージ構築、地域活動の有機的連結とその活性化を
実現する人材を求めている地域社会の要望を踏まえ、
2016年4月、地域の活性化に不可欠な社会を牽引するイノベーション創出を目指し、
宮崎大学に新たに設置された地域資源創成学部。

本学部では、経営学の視点を持ち地域を発展させる方法を考え、
実践できる人材を育成するために、
法学・経済学・社会学・農学・工学などを幅広く学ぶことで
より地域を深く理解し、革新的な価値を創出できる教育を提供しています。

目次

02	これからの「地域」で活躍できるキーパーソンを育成する。
04	企画力、実践力、総合的思考を身につける。
06	基本的な知識を蓄え、知識を応用できる力をつける。
08	豊富な選択肢から選べる研究とキャリアの道。
13	教授 准教授 講師
16	サークル・部活・アクティビティ
17	卒業生 / データ

宮崎大学 地域資源創成学部

Faculty of Regional Innovation

	1年		2年		3年		4年			
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
	情報収集・分析力				企画実践力				卒業研究 学士論文	
実習	情報収集・分析力 専門科目 コース コア科目 各コースの概要を学び自分に適したコースを決定します。				企画実践力 専門発展科目				卒業研究 学士論文	
	地域理解実習 → 地域探索実習Ⅰ → 地域探索実習Ⅱ				マネジメント実践Ⅰ(ゼミ) → マネジメント実践Ⅱ(ゼミ) → マネジメント実践Ⅲ(ゼミ)				卒業研究 学士論文	
										
	<ul style="list-style-type: none"> 地域産業創出概論 地域創造概論 企業マネジメント概論 キャリアプランニング 				<ul style="list-style-type: none"> 企業マネジメント 地域産業創出 地域創造 				<ul style="list-style-type: none"> 産学官連携マネジメント論 次世代技術と産業 国際農業論 地域資源と技術 	
講義	マネジメントコア科目 マネジメントの基礎を学ぶ				マネジメント アドバンスト科目					
	<ul style="list-style-type: none"> 地域学基礎 地域社会学概論 法律学入門 地域資源論 簿記論 経営学概論 マーケティング論Ⅰ 会計学Ⅰ プロジェクトマネジメント 企業家精神とイノベーション 地域経済学 マクロ経済学 ミクロ経済学 				<ul style="list-style-type: none"> 組織論Ⅰ 経営戦略論Ⅰ マーケティング論Ⅱ 国際地域学入門 異文化コミュニケーション PBL(プロジェクトベースドラーニング) 海外短期研修 国内インターンシップ 地域経営論 財政学 コンテンツプロデュース 広告メディアコミュニケーション 地域社会と内発的発展 デザインマーケティング 地域活性化システム論 交流マネジメント論 日本経済論 金融論 					
	卒業後の進路と照らして、3つの異分野コア科目の履修が、2年後期からのコース選択の参考となるため1学年時の履修は重要となります。				コース選択期間(ゼミ選択)					
	基礎教育科目				専門英語					
<ul style="list-style-type: none"> 情報・データリテラシー 大学教育入門セミナー 英語 a1 英語 b1 初修外国語(中国語・韓国語・仏語・独語) コミュニケーション概論 統計学基礎 社会調査法 				<ul style="list-style-type: none"> 特別英語Ⅰ ビジネス英語Ⅱ-1 特別英語Ⅱ ビジネス英語Ⅱ-2 				地域資源創成学部として 専門科目: 「マネジメントコア科目群」「コースコア科目群」「マネジメントアドバンスト科目群」「コースアドバンスト科目群」「専門英語」「卒業研究」を設置しています。		
導入科目				課題発見科目				学士課程教育として 基礎教育科目: 「導入科目群」「課題発見科目群」「学士力発展科目*」		
<ul style="list-style-type: none"> 英語 a2 英語 b2 初修外国語(中国語・韓国語・仏語・独語) 統計学基礎 社会調査法 				<ul style="list-style-type: none"> 環境と生命 専門教育入門セミナー 現代社会の課題(1科目を選択) 				* 学士力発展科目は左図以外にも、100以上の豊富な選択科目があります。(P7参照) * 表に掲げる履修科目は年度により変更されることがあります。		
<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション概論 数学基礎 				<ul style="list-style-type: none"> ビジネス英語Ⅰ-1 ビジネス英語Ⅰ-2 地域・学際系科目、自然科学系科目 				を履修する規定となっています。		
学士力発展科目				<ul style="list-style-type: none"> 地域・学際系科目 地域活性化学生マスター科目 						



地域資源創成学部

Faculty of Regional Innovation

「マネジメントの専門知識」と、「社会・人文科学、及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識」を教授する異分野融合のカリキュラムを構築するとともに、研究者教員と実務家教員とが協働した実践的教育、宮崎県全域をフィールドとした実習や国内・海外インターンシップによる地域の方たちと一体となった協働教育を導入しています。これらにより、「企画力」「実践力」の育成を図り、地域の活性化に不可欠な社会を牽引するイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、地域から要望が高い、実社会で即戦力として活躍できる人材の輩出を目指しています。

Transform Yourself in 4 Years.

これからの「地域」で活躍できる
キーパーソンを育成する。

地域資源創成学部が目指すもの——それは、地域活性化分野で活躍できる人材の育成です。
テクノロジー、政治、経済、文化など、私たちを取り巻く要素が常に変化するこの時代。
地域が持つ資源の価値を見出し、発展させることは、これからの日本を支える鍵となります。
だからこそ、本学部では地域における次世代のキーパーソンを育てたいと考えているのです。

「地域を変えていきたい」「地域から日本を、世界を変えていきたい」、
そんな思いを胸に日々学び、学んだことを実践する視座の高い学生が
数多く在籍するのが、この地域資源創成学部です。実際、本学部では
地域の活性化に不可欠な、社会を牽引するイノベーション創出の
ためのマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える
視野を持った人材を養成することを第一と考えています。
そんな次世代のキーパーソンを育成するため、マネジメン
トの専門知識と、社会・人文科学、及び農学・工学分野の
利活用技術の基礎知識を学べる異分野融合のカリキュ
ラムをベースに、→



理解
1年



企画
2年



実践
3年



研究・創出
4年

→研究者教員
と実務家教員と
が協働した実践的
教育、さらには宮崎県
全域をフィールドとした
実習や国内・海外インター
シップによる地域の方たちと一体と
なった教育を導入。こうした多角的な学びをリアリティをもって得られる
学部は全国でも珍しく、社会人として不可欠な「企画力」と「実践力」を身に
つけることができます。

本学部は「地域資源を『創成』する学部」です。地域の資源を生み出すだけ
でなく、その資源を成長させていくために誕生しました。だからこそ本学
部では「地域と未来を本気で考えたい」という熱意、そして「大学での学
びを人生に生かしていきたい」という学問への高い関心を持った学生を広く
募っています。一度きりの大学生活。この地域資源創成学部で、
ここでしか出会えない教員、仲間と共に学び、研究やフィー
ルドワーク、学外活動を通して実りある時間を過
ごすことで、次の世代を担うしなやかな
人へと成長してみませんか。



Our Unique Curriculum

企画力、実践力、 総合的思考を身につける。

地域がどのような課題を抱えているのか、そしてその解決方法をいかに見出すか。それには複眼的視野を養い、かつ講義だけでは学ぶことができないリアルな地域の現場を知る経験が欠かせません。本学部では独自のカリキュラムにより、地域の現状を学問的裏付けを踏まえた上で企画力、実践力といった総合的思考を身につけることができます。

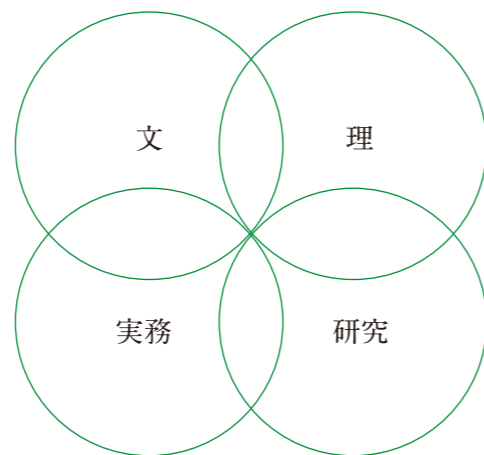
異分野融合教育

複眼的視野の獲得

本学部では、複眼的な視野を養うため「異分野融合教育」を提供しています。

この異分野融合教育では、文系・理系といった分野の教育に、実務・研究の視点が加わることで、異分野理解を視野に入れた授業内容を展開。科目のコンテンツを共同制作したり、グループワークにおける多角的な指導を行ったりすることで、実践的な情報収集能力や分析力の強化を目指します。また、異分野の実習体験ができるのも、この教育方針ならではの。このような異分野融合教育は、日本ではあまり例を見ない取り組みとなり、本学部の一つの大きな特徴ともいえます。

具体的には、企業・産業・地域のマネジメントに加えて、農学・工学の基礎を習得できます。例えば1~2年次前期にマネジメントコア科目群を履修し、2年次後期~3年次にはマネジメントアドバンスト科目を学びます。これに加えて、生物概論や作物栽培学、フードビジネスといった農学系科目や、ICTと地域産業やウェブデザイン、地域資源と技術など工学系科目についても学習することで、実践的なマネジメント力を養うことができるのです。



高校時代、農業の仕組みを学んだことをきっかけに興味を持ったのが畜産農業という分野でした。地域資源創成学部でもこの畜産農業を専攻としており、受講科目は主に理系的なものになりますが、私はこうした畜産農業の学びをいかに地域振興とリンクさせるか、ということが目下の課題だと思っています。そうした学びを社会に還元するためにも、経営学やマーケティングの知識といった文系科目としての学びも不可欠だと考えているんです。

学部の授業では文系・理系に止まらず、実践的、研究的視点から学べるため、自分が将来やりたいことのイメージが一層クリアになりました。また「もっとリアルな現場を知りたい」と思い、自ら学外活動として自発的に牧場を訪れ、研修を受けた経験もあります。こうした学びも踏まえ、将来は生産者と消費者が持つ生産物の価値への認識のギャップを埋めたいと考えています。地域で大切に育てられた生産物がなぜ高付加価値で販売されているのか。どのような過程があるから、価値があるのかといった情報を多くの人が共有することで、地産地消を一層促せるような社会を作っていきたいと考えています。(羽田野夢華：4年、地域産業創成コース、宮崎県 高鍋農業高等学校出身)



実際の地域へ

1~3年次にかけて、本学部では宮崎の各地で実習を通じた授業を行います。

まずは地域に飛び出し、五感を通して地域資源を探することで情報収集力や分析力を養います。さらに、現場で見つけた地域資源を組み合わせる新たな価値の創出を目指し、企画力や実践力を身につけていきます。こうした力は実際の地域へ足を運ぶからこそ学べるもの。また実習を通して現場を見ることで、講義への理解をより深めることができ、かつ講義で得た知識を実践の場で生かせるというサイクルも生まれます。実際の地域で得た経験・体験は、卒業研究にはもちろん、卒業後の地域での実務にも、確実に役立ってくるものです。



地域資源創成学部では県内をフィールドとして、県北から県南まで幅広いエリアに足を運びます。「地域探索実習Ⅰ」では、その土地土地の暮らしを知り、その産業は何を付加価値としているのかを現地で学びます。また「地域探索実習Ⅱ」は、産業構造を自分の目で理解するために、実際の生産の現場に足を運ぶ実習です。

中でも、1年次後期に行った高千穂町での地域探索実習は、数ある実習でも非常に印象深いものでした。当日まず町長や役場の方々に話を聞き、高千穂の現状を大まかに理解した後、2日目は高千穂峡といった名所を回りましたが、特に「行ってよかった」と思えたのが、現地での民泊です。そこでは講話の中では聞けない、その土地のリアルな暮らしぶりや、住民が実際に肌で

感じている課題というのを生の声で聞くことができました。インターネットでなんでも調べられる時代にはなりませんが、特に地域の情報はまだまだ情報として表に出ていないことも多く、それは現地に足を運び、寝泊まりし、現地の方々と話をしなければ決して気づくことができないものばかりです。だからこそ、こうした実際の地域へ足を運ぶという経験は学生時代にこそ得ておくべきものだと思います。(渡部竜弘：3年、地域創造コース、佐賀県 鳥栖高等学校出身)

実践のサイクル

本学部では、数々の講義をはじめ、「地域探索実習Ⅰ」や「地域探索実習Ⅱ」のような実際の地域でのフィールドワークを経て、専攻とするコース、そしてゼミ(マネジメント実践)を決めていきます。

ゼミでは単なる研究や論文執筆ではなく、必ず「実践」を行うのが本学部の特徴です。そして、その実践を繰り返すことで、分析・研究・提案力の精度を高めていきます。また、ゼミだけでなく国内外におけるインターンシップも必修としており、多岐にわたる分野の企業や行政の現場に実際に入り込むことで、社会に出てから必要とされるあらゆる環境下における対応力を身につけ、自ら課題を切り拓く術を習得することができます。



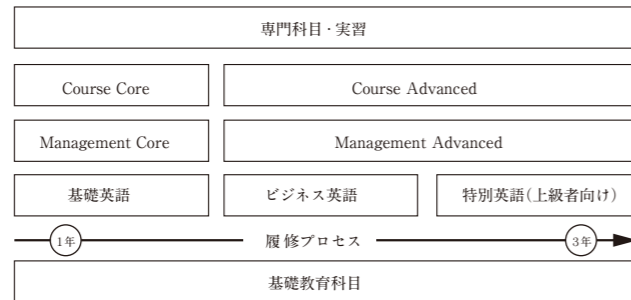
ゼミでの実践は、1年次から培ってきた学びを存分に生かすことができる場で、私も企業マネジメントコースの学生としてゼミでは講義で得た知見を駆使し、実践に当たりました。

私のゼミでは、配属直後から2年次の最後まで延岡市の産業観光プランを考えるというミッションが与えられました。実際に市の観光協会から「延岡市の産業観光を盛り上げてほしい」というオーダーがあり、これに対してどのような提案をするかをチームで考えるというものです。「産業観光」という定義の広さ故に何を題材にすべきかすぐに絞ることができなかったため、ビッグデータからニーズをつかみ、今回のプランのターゲットを特定。最終的には延岡にあるさまざまな観光資源から工場見学をテーマに選び、提案しました。続いて3年次には都農町の社会課題を探し、その解決法まで提案するという実践の場を与えられましたが、「自分たちで課題を探す」という点が難題で、1年の半分以上をこの課題設定に費やしました。こうした経験から学べたことは、大切なのは単に独創的なアイデアを出すことではないということです。本質的な課題がどこにあるかを見分ける力を学生時代に学べたのは、大きな糧になったと思います。(後藤花帆：4年、企業マネジメントコース、宮崎県 五ヶ瀬中等教育学校出身)

Building up Your Knowledge

基本的な知識を蓄え、
知識を応用できる力をつける。

マネジメント力のあるリーダー育成のため、本学部では段階的に科目・科目群を設定しています。1年次からコア科目を学び、また地域に向いて現場から学ぶ「地域理解実習」「地域探索実習」も用意。加えて「ビジネス英語」といった専門英語も修得でき、トータルマネジメント力の育成につながるよう、機能的なカリキュラムを用意しています。



※さらに詳しい内容は表紙裏記載



独自の機能的カリキュラム

本学部では、全国でも類を見ない独自の機能的なカリキュラムを編成し、地域における新たな成長産業の振興や地域活性化を企画・実践できる実務的素養を身につけた人材の育成を目指しています。

まず1～2年次の中心的学びは基礎教育、専門基礎となります。これらの中には、「導入科目」としての大学教育入門セミナーやコミュニケーション概論、英語・数学の基礎等に加え、専門教育入門セミナーといった「課題発見科目」、そして地域・学際系、自然科学系、外国語系の3つの系からなる100以上の選択科目を「学士力発展科目」として用意しています。

こうした基礎教育に加え、専門科目と呼ばれるのが「マネジメントコア科目」「コースコア科目」といったものです。これらの中では経営学概論やマーケティング論Ⅰをはじめ、地域産業創出概論といったものが含まれます。2年次後半からは専門発展科目として3つのコースに分かれて学びます(P8～P11参照)。また、コースを跨ぎ「マネジメントアドバンスト科目」として、発展的な専門科目も多数用意。組織論Ⅰやマーケティング論Ⅱといった必修科目をはじめ、選択科目として日本経済論や広告メディア・コミュニケーション、コン

テンツプロデュースも学ぶことができます。このように、マネジメントに必要な科目群を1年次から用意することで、段階的に知識を修得できます。

また、1～2年次にかけては大学周辺の地域理解実習をはじめ、中山間・市街地といった地域別、産業別の地域探索実習も実施しています。

1年次から英語の基礎を学び、年次が進むにつれビジネス英語、特別英語とレベルアップしていく英語教育にも力を入れています。特に英語においてはコミュニケーション力の育成を重要視し、トレーニングを実施。ビジネスで活用できるような「生きた英語」の修得を目指します。

こうした講義や地域の現場での学びに加え、3年次には国内または海外の企業(地域)などへのインターンシップも実施。インターンシップとは、企業や団体等で実際の仕事をしながら現場で学ぶ(OJT方式)プログラムです。このインターンシップにより、社会でのリアルな実習を取り入れています。インターンシップは長期休暇を利用したもので、さらなる個人のスキルアップを目指します。

以上のような機能的なカリキュラム体系で教育を行うことで身につけた知識、経験を生かし4年次には卒業研究に当たります。そして卒業後はトータルマネジメント力を備えた、地域を創成できるリーダーとなって社会に羽ばたくことができるのです。

基礎教育科目 履修可能科目(一部)

表に掲げる授業科目は年度により変更されることがあります。

- 導入科目 ■大学教育入門セミナー ■情報・データリテラシー
 ■外国語コミュニケーション ———— ・英語 a1 ・英語 b1 ・英語 a2 ・英語 b2 ・初修外国語(中国語・韓国語・仏語・独語)
 ■専門基礎 ———— ・コミュニケーション概論・数学基礎・統計学基礎・社会調査法

●課題発見科目 ■専門教育入門セミナー ■環境と生命

■現代社会の課題

①社会と人間

- ・人間の心と行動
- ・美術と文化～美術鑑賞から異文化理解～
- ・音楽と人間
- ・暮らしを見つめる
- ・風土・地域と人間
- ・現代社会と歴史(1)近代日本とアジア
- ・現代社会と歴史(2)ヨーロッパと日本、その歴史と文化
- ・現代社会と家族
- ・現代社会と子供・青年
- ・現代社会と法
- ・大学と学生

- ・「私」のキャリアとライフデザイン
- ・障がい者支援入門
- ・国際協力入門
- ・人口減少社会における公民連携(PPP)のまちづくり
- ・観光と言語
- ・中華世界理解基礎
- ・生と死の倫理学
- ・現代ドイツへの招待
- ・SDGs時代の開発経済学入門
- ・地域学入門Ⅰ(A)(B)

②自然の仕組み

- ・生物科学
- ・自然科学の考え方
- ・情報科学
- ・物質と電気の科学
- ・統計データによる地域課題分析

●学士力発展科目 本科目群は教養をより一層深め・広げることを目指すために設けられており、各科目の狙いを参考に計画的な履修が求められます。

①地域・学際系

- ・博物館概論
- ・生涯学習論
- ・日本の恋歌一和歌・短歌と歌謡曲一
- ・ベンチャービジネス入門
- ・魚・家畜・草の文化論
- ・日本の自然と災害
- ・保健医療社会学

- 他、
- ②自然科学系
- ③外国語系
- もあります。

- ・地域学入門Ⅱ(A)(B)
- ・地域デザイン概論Ⅰ
- ・ライフプラン作成のためのキャリアデザイン講座
- ・生涯スポーツ実践
- ・ワークショップ入門
- ・家族社会学入門

- ・現代アメリカ入門
- ・市民参加の地域づくり
- ・宮崎の近代と戦争
- ・地域文化論
- ・国際化入門
- ・日本国憲法
- ・映画を楽しむ

3 courses

Various Seminars and Internship

豊富な選択肢から選べる 研究とキャリアの道。

本学部では2年次後期から学生各自の希望により、企業マネジメント・地域産業創出・地域創造という3つのコースを選択できます。1～2年次にかけて築いた基礎知識をベースに「もっと学んでみたい」という意志を尊重することで、学生一人一人が目指す進路や将来設計に沿った学びが可能となります。



松本望：企業マネジメントコース
福岡県 福岡雙葉高等学校出身

企業マネジメントコース

Business Management course

本コースが目指すのは、地域の産業振興に寄与する次世代のビジネスリーダーの養成です。授業やゼミでは、国内外の産業経済構造を俯瞰的に捉え、地域の社会経済状況を調査・分析。そしてその知見をもって、国内市場や海外市場の開拓やリンケージ構築、企業誘致、起業といった、地域経済の発展に寄与するアイデアを引き出す力や、それを実践する力を育みます。

企業マネジメントコース研究室

- 会計学研究室
- 地域国際化研究室
- 経済地理学研究室
- 技術経営・ベンチャー研究室
- 地域経営研究室
- コミュニケーション研究室
- 創造政策研究室
- 国際経営研究室
- マーケティング研究室



ゼミの様子(マーケティング)



海外とオンラインで繋ぎ講義

高校時代にデザイン思考について学んでいたのと、サーフィンが好きだったこともあって、当時から地元で月に1度ビーチクリーンに参加していました。それがきっかけで環境問題や海洋汚染問題に興味を持ち、より学びを深めたいと考えたのですが、それと同時にこうした問題をプロジェクト化し、地域活性に貢献できるのではないかと考えて本学部へ進学しました。中でも企業マネジメントコースは、環境問題そのものだけでなく、いかにして大衆を巻き込むシステムを作るかといったマネジメント力を身につけたいと思って選択しました。

ゼミではマーケティングを専攻し、教科書を読みながら知識を深めつつ、ごみ・リサイクル・環境問題に10年以上前から取り組み、資源リサイクル率日本一である鹿児島県大崎町でフィールドワークをしたり、興味関心のある分野の現場に足を運んでより理解を深める機会を得ています。またベンチャーキャピタルでのインターンシップを通してプロジェクトを運営する立場でなく、支援する側の立場に立つという経験もしています。こうした数々のコースでの学びを生かし、いかに支援者を募りながら、事業として環境問題を解決していくか考えていきたいと思っています。





天神美胡：地域産業創出コース
宮崎県 宮崎南高等学校出身

地域産業創出コース

Regional Industry Creation course

農業・自然・文化といった地域資源の価値を理解し、こうした資源を活用した新商品の企画、ビジネスの新展開、さまざまな切り口からの地域資源の魅力発信ができる力を身につけることができるのが、本コースです。ここで培った力によって地域資源に新たな価値を見出し、6次産業化や観光といった地域の産業創出につなげることができる人材の養成を目指します。

地域産業創出コース研究室

- 地域交流デザイン研究室
- 観光・地域経済・産業政策研究室
- 交通まちづくり研究室
- 地域デザイン研究室
- 食料・農業経済学研究室
- 生物遺伝資源・栽培学研究室
- 食品科学・食品機能学研究室
- アート・デザイン研究室



ゼミの様子(食品科学・食品機能学研究室)



屋外での研究も(生物遺伝資源・栽培学研究室)

私が所属する地域産業創出コースは、地域における資源とは何なのか、自然科学の切り口からアプローチするコースで、食品や畜産、環境と幅広く学べるのが特長です。過去に受講したものの中でも、資源系のごみ問題や生体濃縮にまつわる循環型環境に関する授業は特に印象的でした。私たちは日常的にプラスチック製品を使っていますが、例えばなぜ洗濯バサミが劣化していくのかなど、日常にある身近な疑問からその原因を紐解いていくという授業でした。そうした親しみやすい学びだった故に、ストンと腹落ちしましたし、そこから発展的な考えにつなげやすかったです。また、コースでの学びは日頃の生活に落とし込めるものもたくさんあるため、食べ物の選び方といった生活習慣の刷新にもつながっています。

私が所属する食品にまつわるゼミでは、現在食品の機能性を高めるための研究をしています。私が入組んでいるのは、癌の抵抗値を高める機能性に着目した食品の研究です。私の周囲にも闘病中の人がいるということもあり、この学びを身近な人に、そしてゆくゆくは地域の健康増進にもつなげたり、そうした食品を地域から生み出すことで、地元宮崎の活性化につなげられるのではないかと考えています。



天神原葵：地域創造コース
宮崎県 都城西高等学校出身

地域創造コース

Regional Management and Development course

今、地域は中山間地域における過疎や高齢化、中心市街地の衰退など、多くの課題を抱えています。それらを解決するためには、地域における住民の組織やネットワーク、行政制度等について理解すると同時に、地方都市・農山村の経済機能、社会機能、環境機能を総合的に捉える力が不可欠です。こうした力を培い、持続可能な地域づくりをトータルマネジメントできる人材を育成します。

地域創造コース研究室

- 民法研究室
- 国際地域学研究室
- 財政学研究室
- 地域都市計画経営研究室
- 行政法・環境法研究室
- 地域環境システム研究室
- 農村社会学研究室
- 労働法研究室
- 地方行政システム研究室



ゼミの様子(地域環境システム研究室)



地域の田んぼアート活動にゼミで参加(国際地域学研究室)

中学生の頃に、地元である都市役所で職場体験をしたことをきっかけに、街づくりに深く関わる仕事をしたいと思うようになりました。地域創造コースでは、特に行政法や街づくりに関連する法律を学ぶことで、街づくりの枠組みや、行政の仕組みについて勉強しています。ゼミも都市計画や街づくりに関するゼミに所属しており、現在取り扱っているテーマは、各地にある道の駅です。防災機能を備えた道の駅など、さまざまな地域拠点としての可能性を見出そうと研究しています。

また、個人的に都市役所に足を運んで都市計画担当の方にヒアリングを行い、市役所で働く人々の現場の声を聞きながら、これから故郷にどのような街づくりが必要なのかを考えています。特に同市は市街化調整区域と市街化区域の線引きを撤廃した珍しい都市で、都市計画を学ぶ私にとっても、非常に興味深いエリアです。就職は公務員を志望していますが、それはこれからの社会に求められる仕事をしたいという思いがあるからです。また、本学で学んだ法律の知識を生かし、街づくりとしてやりたいこと、できることを模索しながら、いずれは故郷をどこよりも住みやすく、楽しい街にしていきたいと思っています。





上) インターン説明会の様子。
左) インターン先で実際に企画・立案を实践。
リアルな社会を体験。
下) インターンを通して信頼関係が構築される。



桑畑 夏生 講師

インターンシップ・コーディネーター

長期間にわたって社会のリアルな現場を体験するインターンシップは、学内での学びを現場にどう生かせるかを知る実践の場であり、時には座学での学びを超えた発想を求められることもあります。故に主体性、課題発見力、創造力が身に付くのはもちろん、学生自身の未来の進路の道標となる貴重な機会でもあるのです。卒業後、働く上でどのような価値観を大切にしたいのかを考えることで、より“働く”を鮮明にイメージできるようになります。



インターンシップ

Internship

2~3年次の長期休暇を利用した、1カ月程度の国内インターンシップ、または2週間程度の「海外短期研修」を必修としている点も、本学部の特徴です。

リアルな社会の場に出て、社会人のもとで働く現場を体験できるインターンシップでは、より実践的なスキルを習得できるだけでなく、個人のさらなるスキルアップも期待できます。

国内インターンシップでは社会人と接する環境で実社会を経験し、さまざまな課題等を体感することで、社会人として求められる能力を的確に理解し、自ら行動できる実践力を養うことが期待できます。

また、多様な業界の一般企業や行政など、インターンシップの受け入れ先も豊富に用意。実際の受け入れ時には学生の希望と受け入れ先の希望をマッチングさせる形で選定し、互いにミスマッチが発生しないよう工夫します。実際、インターンシップをきっかけに、卒業後は受け入れ先企業に入社した学生もあり、インターンシップをきっかけに地域の最前線で働く人材を輩出しています。

海外短期研修

Short-term Overseas Training

本学部では、学生が2週間程度以上海外に滞在し実践活動を行う「海外短期研修」を実施しています。本海外短期研修は、地域資源創成学部が学内外で開講する講義や地域実践実習で得た知識や実践能力を国際的な視点から高めることを期待して開講しているもので、グローバルに活躍したいと考える学生に人気の研修です。海外でのさまざまな課題等を体感し、文化や社会の違い、多様性に触れることで、グローバルな視点や自ら国際的に行動できる実践力を身につけることができます。さらに、自身のキャリア形成について深く考える機会を得ることも可能です。

これまでの海外短期研修先としては、国際NGOや日系企業でのインターン(ベトナム)、泰日工業大学での研修(タイ)、ホテルや日本語教師でのインターン(台湾)、語学学校インターン(ニュージーランド)等があります。



海外での経験はさらに広い視野を獲得できる、有意義で貴重な経験となります。



Our People, Our Wisdom

教授 准教授 講師

Professor, Associate Professor and Lecturer

地域資源創成学部は、文系と理系の融合(文理融合)の学部であり、さまざまな分野の教員が在籍しているのが大きな特徴です。実務家教員も多く在籍していることから、より実践的でリアルな学びが得られます。

自分が自分らしく生きるために、知的好奇心を掻き立て、研究し、実践する。そんな理想の「学び」を教授し、時に並走するのが、本学部の教員たちです。

根岸 裕孝 教授 地域経営学



企業マネジメントコース

持続可能な地域づくりが各地で一大テーマとなる今、地域におけるヒト・モノ・カネ・情報といった資源をどうマネジメントしていくかは大きな鍵となっています。経営学という企業をイメージする人も多いでしょうが、地域経営学とは、その経営学の視点をもってして地域をいかに持続させていくかを考える学問です。人材を育てるにはどうするか、足りない資源を調達するにはどうするか。そうした企業が抱える課題を地域にも当てはめ、かつ現場に出て実践的に学ぶことで、人口減少問題を前に未来の地域がどうあるべきかを考えます。

土屋 有 准教授 経営学(マーケティング)



企業マネジメントコース

マーケティングとは、「なぜその商品を選ぶのか」といった消費行動を理解し、選ばれる商品・サービスの作り方・届け方を学ぶことです。こうした学びから人々の価値観を知り、地域の価値をいかに発信していくべきかという手段を分析・企画することができます。また、アントレプレナーシップ(起業家精神)も私の専門領域です。チャレンジしたいと思った時に、自らチャレンジできる力を養うためにも、この力は不可欠。本学部からそうした挑戦者を一人でも多く育てるためにも、アントレプレナーシップを学生に培ってほしいと考えています。

尾野 薫 講師 交流マネジメント



地域産業創出コース

私が受け持つ「地域交流デザイン研究室」は、普段何気なく見ている街の風景としてのデザインだけではなく、その裏側にある産業循環デザインについても考える場所です。例えば日向市内では地元の杉材を各所で活用していますが、その駅舎は見た目の美しさだけでなく、裏では地元の林業や製材業、職人らの産業を支える仕組みにもなっている点が素晴らしい好例です。私の授業では、「ヒト」「モノ」「コト」という3つの視点で、目に見えない地域資源の循環をどう可視化し「デザイン」するか?について一緒に考えています。

教務・学生支援係 総務係 学生生活を安心して過ごせるよう、教務・総務のスタッフがサポートします。



橋口 正嗣 准教授 生物遺伝資源・栽培学



地域産業創出コース

農学は食糧生産が目的であるのに対して、地域資源創成学は地域活性化が目的です。私が担当する栽培学では、植物材料(植物遺伝資源といいます)を栽培することでその特性を知り、その中から良い物を選んだり交配したりして新しい品種を作ることを教えています。私自身、今は暖かい宮崎の環境に適した大豆や冬に枯れない芝生を研究している研究者です。一見、これは農学部の授業や研究のように見受けられますが、ここでは開発した品種(作物)の利用と社会実装までの過程も研究対象とすることで、地域活性化への貢献を目指しています。

丸山 亜子 教授 労働法



地域創造コース

労働法とはワークルール、つまり働く人を守るための法律のことです。長時間労働やブラック企業の存在が社会問題化する今、労働法についての知識は自分自身を守ることに必ずつながります。また、最低賃金のように各都道府県ごとに定められるものもあり、地域で生きるためにも、地域における労働環境の実態を知ることは欠かせません。さらに、労働関係の法律はその内容自体が東京といった都市部では浸透していても、地方では浸透にまで時間がかかるという事実もあります。そうした地方における働く環境のリアルを知るための学問です。

松岡 崇暢 准教授 農村社会学



地域創造コース

今、国内における人々の多くが都市部で生活する一方、限界集落のような農村部に住んでいる人もいます。この都市部と農村部、一見関わりは薄いように見えますが、実は都市部で暮らす人々も、集落を支える農業で生まれた農産品など、農村社会の恩恵を受けているところは多分にあります。また現代のグローバル経済の波も、その影響は都市部に留まらず、農村部にまで及んでいるのも事実なのです。そうした意味でも、農村社会について理解を深めることは、地域を理解し、さらには我が国、地球全体を学ぶことにつながるのだと私は考えています。

学部長 桑野 斉 教授 自治体経営 地域創造コース

宮崎大学では学術と実務が融合した新しい学びの場として、2016年に「地域資源創成学部」を創設しました。全国には多くの大学で地域系学部が設置されていますが、本学部は「地域資源創成学」という理論と実践を融合させたユニークな科学的コンセプトのもと、地方創生や地域活性化を総合的に学ぶ独自の環境を用意しました。現在、10以上の多様な専門分野の教員が在籍し、自由に柔軟な発想のもと、地域課題の解決や新たな地域づくりに向けた企画や実践を学生とともに進めています。「地域資源創成学」に関心のある方は、本学部の仲間になっていただき、地域の未来をともに構想していただくことを期待します。



After school /life

サークル・部活・アクティビティ

部活やサークルは大学生活の楽しみの一つ。宮崎大学には多くの部活・サークルが存在し、多くの学生がアクティビティを楽しんでいます。海・山に近い宮崎大学ではサーフィン部などの野外部活動も充実しています。先輩後輩や学部を超えての交流を通して、人生の友に出会うこともあり、本学部生もさまざまな活動に参加しています。

学内委員会



天神原葵：地域創造コース 4年
宮崎県 都城西高等学校出身

数ある大学のイベントの中でも、特に盛り上がるのが学園祭。私は入学時、学部の先輩との交流会で声をかけられたことをきっかけに、1年次からこの学園祭の実行委員として活動しています。学園祭は軽音部やダンスサークルなどで活動している学生たちにとって大切なステージであり、実行委員はあくまで裏方の仕事ではありますが、他学部の学生と交流し、友人を作るなどかけがえない経験ができます。残念ながら2020年の開催はコロナの影響で断念となりましたが、2021年の学園祭では実行委員長を務め、オンラインという新しい形での開催を実現させることができました。

アクティビティ



松本望：企業マネジメントコース 3年
福岡県 福岡雙葉高等学校出身

私のライフワークはなんといってもサーフィン。小学5年生の時に大会に出てからというもの、サーフは私の生活になくてはならない存在です。福岡から宮崎の大学に進学した理由の一つも、宮崎には毎日波があり、1年を通して心地よくサーフィンを楽しめることにあります。時には授業と授業の合間に、大学から10分ほどのサーフスポットへ行くことも。宮崎のサーファーは年齢層も若く、歳の近い仲間同士で切磋琢磨できるのもうれしいです。サーフィンを通して生まれたサーフコミュニティも私の大学生活を楽しみさせる大事な要素となっています。

サークル



後藤花帆：企業マネジメントコース 4年
宮崎県 五ヶ瀬中等教育学校出身

大学生活で特に積極的に時間を割いているのが「チャリティーサンタ」というボランティア活動です。これはクリスマスシーズンにサンタクロースに扮して保育園などに出向いたり、お預かりしたチャリティー金を貧困家庭や被災地を支援する活動で、私自身も1年次にはサンタクロースになって子どもたちの元へ訪れました。今では組織のマネジメントに回り、スケジューリングなどを担っています。クリスマスシーズンはゼミ活動との両立に苦労することもあります。自分の成長につながる活動だけに時間を集中させることで、有意義な学生生活を送れていると感じます。



Alumnus

卒業生

本学部は2016年に設立された比較的新しい学部ですが、他に類を見ない講義と実践を組み合わせた独自のカリキュラムにより、地域で活躍する人材を確実に輩出してきています。ここでは卒業生が振り返る在学中の学びと、それをいかに社会で生かしていくのかというリアルな声をお届けします。



藤井美帆：企業マネジメントコース 2022年卒
同年4月より Qurumu 合同会社に就職

私は本学での学びを通じ、講義によって「物事を幅広く考える力」と個人やチームで発表する機会が多かったことから「主体的に考える力」を得られたと感じます。就職先は、宮崎市内に本社を構えるPR・コンテンツプロダクションの会社で、学部の必修単位であるインターンシップでの出会いがきっかけでした。元々PRやライターの仕事に興味があった私には、まさにぴったりの環境。ネットニュースの記事を書いたり編集の作業をしたり、普段できない体験や、働く楽しさを体感でき、インターン後も同社でアルバイトをしながら経験を積んで入社に至りました。今後も学部で培った些細な地域の課題や良さに気づける視野を生かしつつ、情報発信という切り口から、地域がより明るくなるような企画を主体的に提案していきたいと思っています。



倉本彩：企業マネジメントコース 2022年卒
同年4月より 株式会社熊本県民テレビに就職

幅広い知見を得られることから文理融合の本学部へ入学した私にとって、学生時代は学びによって自分のやりたいことを探す場でした。そんな学生時代で最も大きな分岐点となったのが、1カ月参加した復興庁による復興・創生インターンシップです。東日本大震災で大きな津波の被害を受けた宮城県山元町へ行き、ゼミで培ったマーケティングの知識を生かしながら現地で働く農家の方々にサポートしました。震災から10年以上が経つ今でも続く復興を目指す景色は、九州では見ることのできないもの。だからこそそうした地域の動きを誰かに伝えられるような人間になりたいと、かねてからの夢でもあったアナウンサーへの道に進むことに。社会人となった今、生活者目線忘れず都市部だけでなく全ての地域を「言葉でつなぐ」人になりたいと思っています。



宮崎大学の部活・サークル

運動部

- ・馬術部
- ・ワンダーフォーゲル部
- ・ウインドサーフィン部
- ・サーフィン部
- ・自動車部
- ・自転車部
- ・気球部
- ・弓道部
- ・水泳部
- ・陸上競技部
- ・サッカー部
- ・ラグビー部
- ・アメフト部
- ・ソフトボール部
- ・硬式庭球部

文化部

- ・ソフトテニス部
- ・男子ハンドボール部
- ・女子ハンドボール部
- ・バスケットボール部
- ・バレーボール部
- ・卓球部
- ・CREW
- ・座波流武術空手部
- ・剣道部
- ・合気道部
- ・少林寺拳法部
- ・DaisyGirls(チャリディング)

サークル

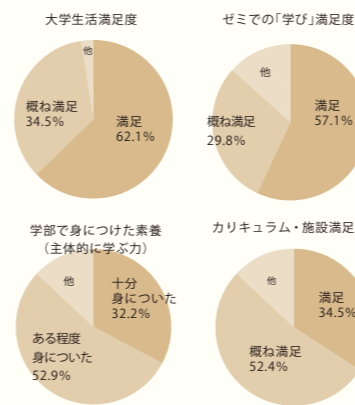
- ・吹奏楽部
- ・管弦楽団
- ・クラシックギタークラブ
- ・モダンジャズ研究部
- ・軽音部
- ・アカペラ部
- ・茶道部
- ・写真部
- ・生物研究部
- ・漫画研究部
- ・コンピュータクラブ
- ・無線部
- ・野外生物体調査部
- ・アースウォーカーズ

- ・インテグラム
- ・セントジェームズ
- ・すまっしゅ
- ・自動二輪部
- ・宮崎大学ボールドラミングサークル
- ・宮大学生消防隊
- ・ダイビングスクール LaMer
- ・wila・FFM
- ・宮大学生献血推進クラブ
- ・リトル・ティチャーズ
- ・dot cube
- ・装道サークル「彩」
- 他

就職・進学 / 学部満足度アンケート結果

学部卒業生アンケート 2021年4月

●学部教育課程での満足度の高い「学び」

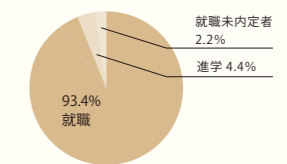


主な就職先業種

- ・地方公務員(県庁、市町村役場)
- ・国家公務員
- ・IT業界
- ・放送局
- ・運輸業(航空業界、高速道路等)
- ・電気/ガス/水道業
- ・卸/小売業
- ・製造業(食品・飲料、繊維、化学工業、自動車部品等)
- ・団体職員
- ・生活関連サービス業
- ・大学職員、教育/学習支援業
- ・金融業
- ・不動産業
- ・複合サービス業
- ・専門技術サービス業(土木、コンサルタント業等)
- ・建設業
- ・進学 など

進路状況 2021年3月

●高い就職率



コース別進路上位業種 1期生から3期生まで

	企業マネジメントコース	地域産業創出コース	地域創造コース
1	情報通信業	卸・小売業	地方公務員
2	地方公務員	地方公務員	情報通信業
3	卸・小売業	情報通信業	金融業
4	生活関連サービス業	製造業	教育学習支援業
5	金融業	金融業	専門・技術サービス

宮崎大学

地域資源創成学部

Faculty of Regional Innovation

〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
TEL: 0985-58-7847

www.miyazaki-u.ac.jp

